

# 松田町第 6 次総合計画基本構想素案

2018 年 7 月

本計画では年号を西暦で表示しています。  
 和暦との読み替えは以下の表を参考にしてください。

■西暦－和暦早見表

西暦	和暦	西暦	和暦	西暦	和暦	西暦	和暦
1868	明治元年	1981	昭和56年	1991	平成3年	2011	平成23年
		1982	昭和57年	1992	平成4年	2012	平成24年
1912	明治45年 大正元年	1983	昭和58年	1993	平成5年	2013	平成25年
		1984	昭和59年	1994	平成6年	2014	平成26年
1926	昭和元年 大正15年	1985	昭和60年	1995	平成7年	2015	平成27年
		1986	昭和61年	1996	平成8年	2016	平成28年
1950	昭和25年	1987	昭和62年	1997	平成9年	2017	平成29年
1960	昭和35年	1988	昭和63年	1998	平成10年	2018	平成30年
1970	昭和45年	1989	昭和64年 平成元年	1999	平成11年	2019	平成31年 ※※元年
1980	昭和55年	1990	平成2年	2000	平成12年	2020	※※2年

# 松田町第6次総合計画 構成案

## 第1編 総論

---

第1章 総合計画策定の趣旨	2
1. 策定の意義	
2. 計画の構成と期間	
第2章 松田町の現状と将来の見通し	4
1. 松田町の今と未来	
2. 将来のまちの危機	
3. 将来期待できるまちの機会	
第3章 町民の期待	13
1. まちの住みよさ	
2. 将来のまちづくり	
3. 今後の取組み	
4. 協働（連携協力）のまちづくり	
第4章 まちづくりの戦略課題	18
第2編 基本構想・基本計画	
第1章 まちづくりの基本的な考え方	20
第2章 松田町が目指す将来像	22
1. 長期を見越した8年間で目指す将来像	
2. まちづくりのテーマ	
3. まちの空間形成と広域連携	
4. 将来人口フレーム	

### 第3章 施策の大綱

29

1. 健康で安心できる生活を育むまち（健康・福祉）
2. 質の高い学びで次代の子どもを育むまち（教育・文化）
3. 賑わいと雇用を生み出し、働きがい育むまち（経済・産業）
4. 安全で持続可能な暮らしを育むまち（暮らし・基盤）
5. 豊かな自然を保全し、やさしい環境を育むまち（自然・環境）
6. みんなで協力し、みんなの力を育むまち（実現手段）

### 第4章 基本計画

32

## 第3編 アクションプログラム

---

### 第1章 アクションプログラムの考え方

### 第2章 戦略プロジェクト

### 第3章 部門別計画

1. 健康で安心できる生活を育むまち（健康・福祉）
2. 質の高い学びで次代の子どもを育むまち（教育・文化）
3. 賑わいと雇用を生み出し、働きがい育むまち（経済・産業）
4. 安全で持続可能な暮らしを育むまち（暮らし・基盤）
5. 豊かな自然を保全し、やさしい環境を育むまち（自然・環境）
6. みんなで協力し、みんなの力を育むまち（実現手段）

### 第4章 地域別プラン

# 第1編 総論

### 1. 策定の意義

総合計画は、その地域全体の総合的・効率的な行財政の運営を図るための基本となるものであり、まちの将来像と計画実現に向けた施策及び施策の進め方を示すものです。

本町の総合計画は、2018年を目標年次とした「第5次総合計画」を2011年3月に策定し、基本構想において「緑と清流のまち、ゆとりを楽しむ きらめく松田」の将来像を掲げ、町民の皆さんとともに、まちづくりを進め、現在に至っています。

その間、当町を取り巻く社会情勢・経済情勢は、長引く不況の中、少子高齢化の著しい進行のもとで大きく変化し、抱える課題も複雑化・高度化・個別化しています。

また、国際化・情報化の一層の進展、環境保護や自然災害などに対する安全・安心への意識向上など、社会情勢はめまぐるしく変化し、町民の価値観も多様化しています。こうした急激な変化に対応し、持続可能で自立した基礎自治体としてのまちづくりの指針を示すため、2019年度からの計画となる「松田町第6次総合計画」を策定するものです。

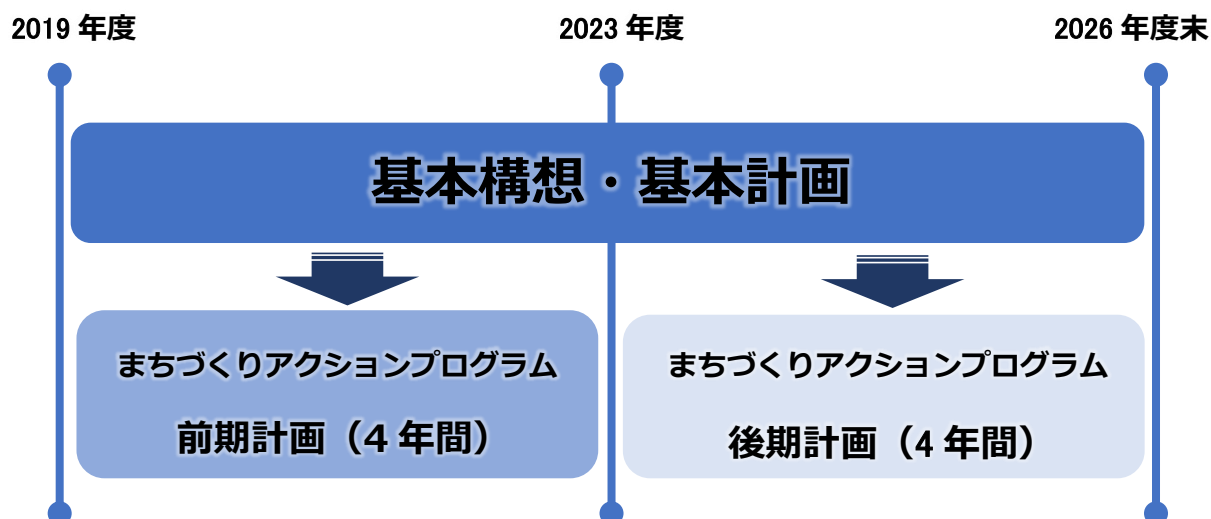
## 2. 計画の構成と期間

### (1) 基本構想・基本計画

基本構想の役割	本町の最高理念であり、将来の町の目指すべき将来像を明らかにすると共に、その実現のための基本的な方向と施策の大綱を示すもの
基本計画の役割	基本構想の施策の大綱を踏まえ、分野別の主要施策の基本目標と方向性を示すもの
目標年次	2026年（基本計画は中間年次で見直し）

### (2) アクションプログラム

アクションプログラムの役割	基本構想・基本計画の方向付けと姿勢を受け、将来像を実現するために実施すべき長期のプログラム（施策や事業内容）を、実行計画として分野別に示すもの 前期アクションプログラムの計画期間は2019年から2022年の4年間とし、基本計画の見直しに合わせて後期アクションプログラムを策定する
目標年次（前期）	2022年



## 第2章 松田町の現状と将来の見通し

### 1. 松田町の今と未来

#### (1) 松田町の歴史と概要

松田町は、北は丹沢大山国定公園・西丹沢山系、南は酒匂川流域の豊穰な足柄平野が広がるその中心に、古くから交通の要所として栄えてきた 37.75 平方キロメートルの町であり、周辺を秦野市、足柄上郡大井町、山北町、開成町と接しています。

町の歴史をみると、明治以前は全域が小田原大久保氏の領有でしたが、明治時代の廃藩置県に伴い、小田原県（のちの足柄県）に移管されました。

1875 年には寄地区の 7 か村が合併して寄村となり、1876 年に足柄県が廃止され、足柄上地区が神奈川県に編入されると、1880 年、足柄上郡の郡役所が松田惣領へ移り、松田惣領が上郡の中心地となりました。

1889 年に東海道線（現御殿場線）松田駅が開業、同じ年に松田惣領、松田庶子、神山村が合併して松田村が誕生し、さらに 1909 年には町制を施行して松田町となりました。

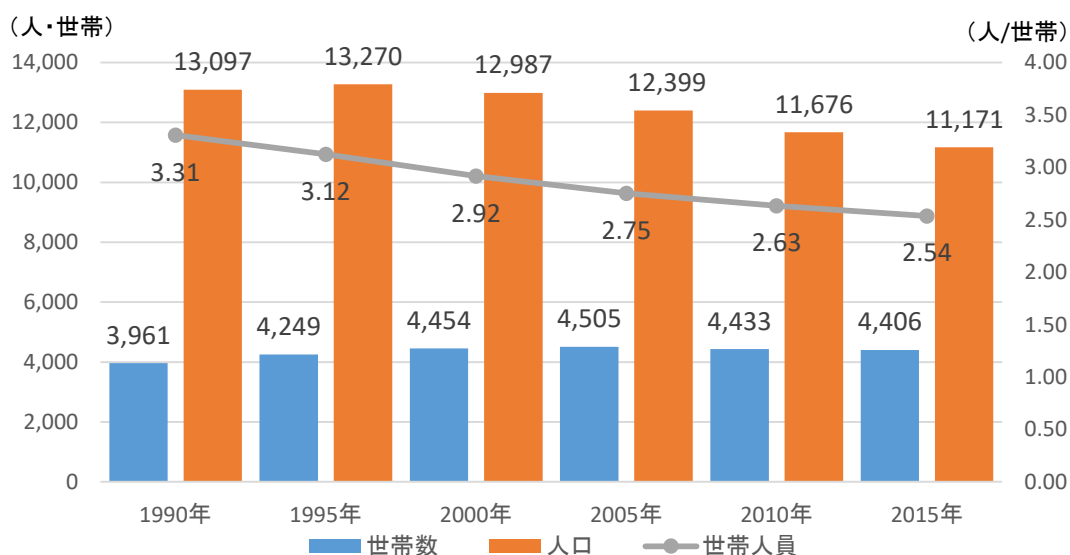
1927 年には小田急線が開通し新松田駅が開業。1955 年に松田町と寄村が合併し、新制松田町が誕生しました。2009 年には町制施行 100 周年を迎え、現在に至ります。





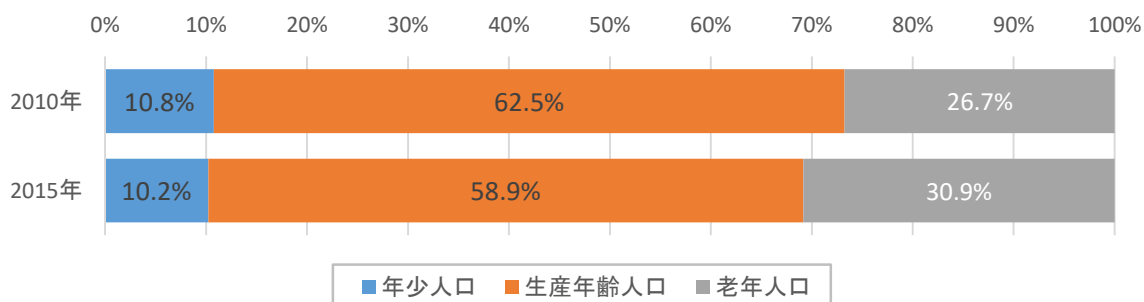
## (2) 人口・世帯等

国勢調査人口は1995年の13,270人をピークに減少、世帯数は2005年に4,505世帯に達したもののその後は横ばいとなっています。このため、一世帯あたりの人口は1990年の3.31人から2015年には2.54人まで減少しています。今後もこの傾向が続くと、町の人口は1万人を割り込むことが懸念されます。

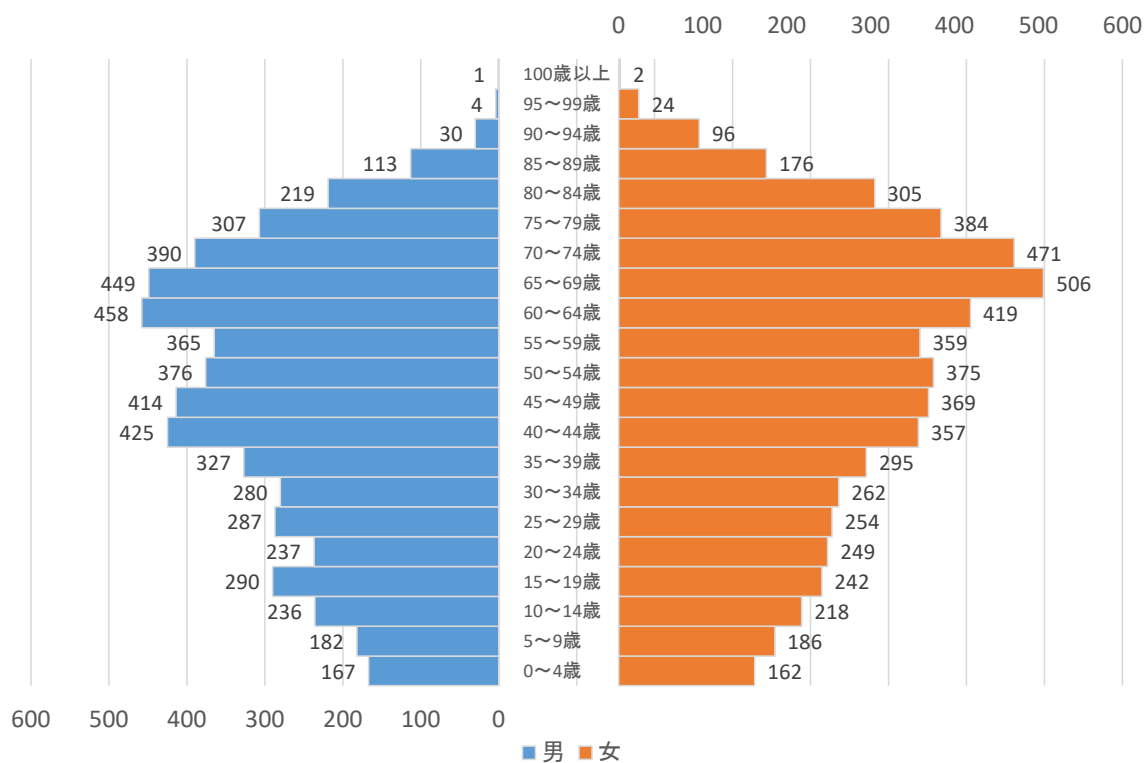


人口・世帯の推移 (国勢調査・1990～2015年)

年齢別人口をみると、2010年から2015年にかけて15歳未満の年少人口と生産年齢人口、特に20代から30代、および50代後半から60代前半の人口減少がみられ、年齢3区分人口でみると、特に15～64歳の生産年齢人口割合が減少し65歳以上の老年人口割合の増加が顕著です。このため、若い子育て世帯の定住支援などにより、生産年齢人口及び年少人口の確保を図る必要があります。



年齢別人口の推移 (国勢調査・2010年、2015年)



人口ピラミッド（国勢調査・2015年）

国勢調査により松田町の4つの地区別の人口・世帯数をみると、2010年から2015年にかけて松田惣領のみ増加がみられるものの、他の3地区は減少しており、特に寄地区の減少が著しくなっています。

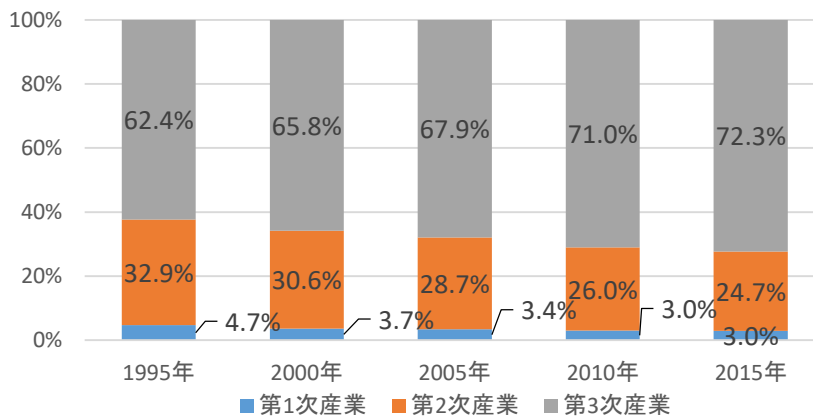
人口	2010年人口	2015年人口	増減率(%)
松田庶子	2,519	2,501	-0.7%
松田惣領	5,896	5,960	1.1%
神山	930	891	-4.2%
寄	2,331	2,119	-9.1%
計	11,676	11,471	

世帯数	2010年世帯数	2015年世帯数	増減率(%)
松田庶子	920	992	7.8%
松田惣領	2,408	2,541	5.5%
神山	343	373	8.7%
寄	762	879	15.4%
計	4,433	4,785	

地区別人口・世帯数の推移（国勢調査・2010年、2015年）

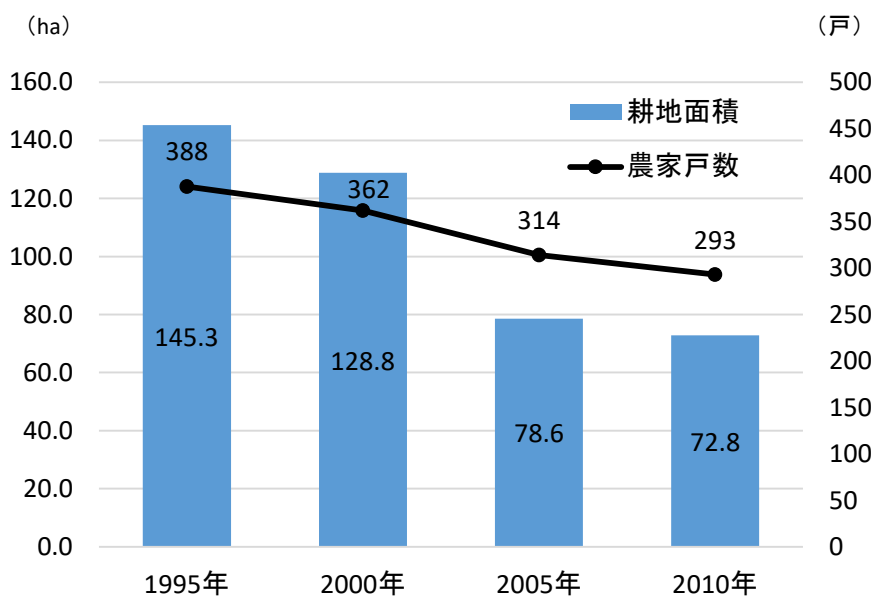
### (3) 産業

国勢調査から本町の産業別就業者数をみると、農林漁業等の第1次産業が減少する一方、サービス業等の第3次産業が著しく増加しており、2015年には72.3%が第三次産業に従事しています。



産業別就業者割合の推移（国勢調査・1995～2015年）

農業粗生産額は近年横ばいから若干回復傾向にあるものの、耕地面積、農家戸数ともに減少傾向にあります。



農業耕地面積と農家戸数の推移（農林業センサス・1995～2010年）

商業に関しては、1999年から2014年にかけて商店数、従業者数、商品販売額ともに減少しており、特に小売業は商店数が半数近くまで減少しています。卸売業では従業者数が4割、販売額は3割まで落ち込んでいます。町民アンケート調査でも、町内では買い物できる場所がない、買い物は町外に行くという人が多く、まちの活性化という面からも町内に商業施設を期待する声が高まっています。

	合計			卸売業			小売業		
	商店数	従業者数 (人)	商品販売額 (百万円)	商店数	従業者数 (人)	商品販売額 (百万円)	商店数	従業者数 (人)	商品販売額 (百万円)
1999年	176	800	12,185	28	139	4,216	148	661	7,969
2002年	166	772	11,204	23	124	3,443	143	648	7,761
2004年	158	768	10,828	24	106	3,116	134	662	7,712
2007年	143	681	12,746	24	112	5,472	119	569	7,274
2012年※	106	457	5,601	25	101	1,687	81	356	3,914
2014年	93	464	5,747	16	52	1,276	77	412	4,471

商品販売額等の推移（商業統計・1999～2014年 ※2012年のみ経済センサス）

工業に関して、1998年から2014年にかけて事業所数、従業者数ともに減少傾向にありますが、製造品出荷額は2003年から2011年にかけて100億円を突破するなど景気の波の影響もみられ、近年は10事業所程度、60億円前後で推移しています。

	事業所数	従業者数 (人)	製造品出荷額 (百万円)
1998年	30	627	10,922
1999年	29	597	9,690
2000年	28	596	9,394
2001年	25	576	8,224
2002年	24	600	8,729
2003年	23	572	12,520
2004年	22	510	13,256
2005年	18	515	12,358
2006年	17	453	15,698
2007年	18	453	17,882
2008年	19	330	15,751
2009年	15	275	10,002
2010年	15	233	12,419
2011年	14	260	13,290
2012年	14	217	8,177
2013年	11	227	5,833
2014年	10	236	6,698

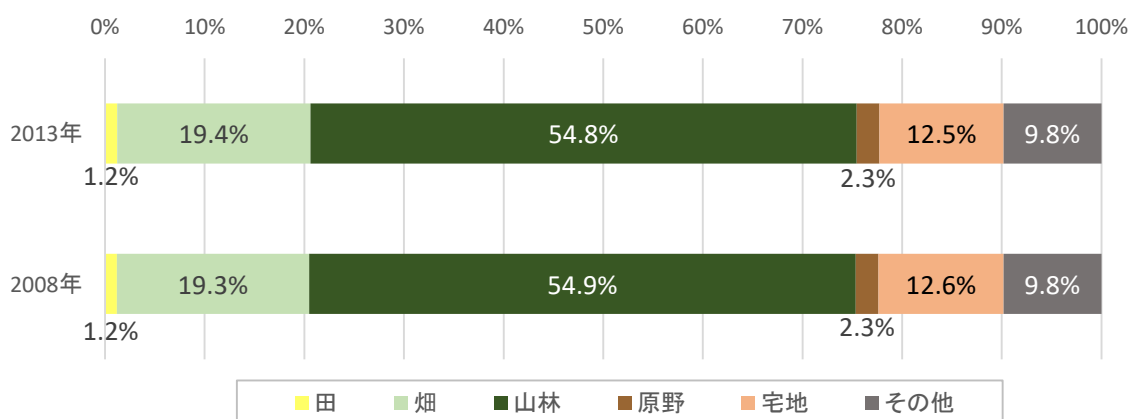
製造品出荷額等の推移（工業統計・1998～2014年）

#### (4) 土地利用・都市基盤等

本町の土地利用は約 55%が山林となっており、次いで約 20%が畑、宅地が約 13%となっています。2008 年から 2013 年にかけて宅地がやや増加しつつあり、今後も、若い子育て世帯の定住を促進するために、豊かな自然環境と調和した魅力的な宅地開発が期待されます。

(km <sup>2</sup> )	田	畑	山林	原野	宅地	その他	非課税地	総面積
2008年	0.142	2.254	6.377	0.265	1.448	1.143	26.121	37.75
2010年	0.140	2.250	6.360	0.265	1.451	1.139	26.145	37.75
2011年	0.139	2.245	6.366	0.266	1.454	1.134	26.146	37.75
2012年	0.139	2.239	6.360	0.265	1.459	1.132	26.156	37.75
2013年	0.138	2.234	6.353	0.264	1.454	1.138	26.169	37.75

地目別土地利用の推移（固定資産概要調書・2008～2013年）※赤字は前年比で増加、青字は減少



地目別土地利用の推移（固定資産概要調書・2008年、2013年）

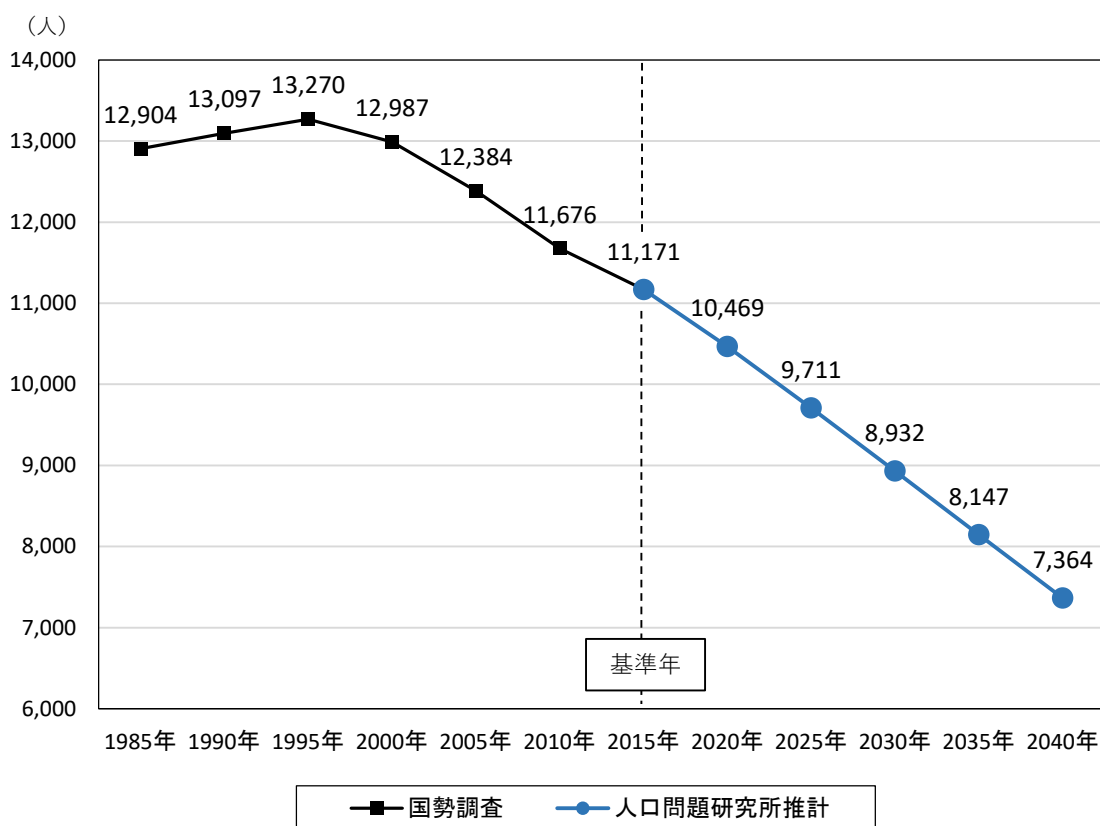
本町には小田急小田原線と JR 御殿場線の 2 つの鉄道が走り、それぞれ新松田駅、松田駅を有しています。2 駅の乗降客数は町の人口の 3 倍近く、近隣 3 町を大きく上回っており、神奈川県西部の交通の要所となっています。交通の便の良さを活かした定住促進や観光の振興による交流人口の増加などが期待されます。

駅名	自治体名	①駅乗車人員	②駅乗降客数 ①×2	③人口 (2017.2)	④人口当り乗降客数 ②/③
新松田駅	松田町	12,183	24,366	11,002	281.8%
松田駅		3,319	6,638		
上大井駅	大井町	471	942	16,932	10.5%
相模金子駅		420	840		
開成駅	開成町	5,097	10,194	17,321	58.9%
東山北駅	山北町	780	1,560	10,360	29.5%
山北駅		647	1,294		
谷峨駅		101	202		

鉄道駅利用の状況（神奈川県交通関係資料集より作成）

## (5) 将来人口の見通し

現在の本町の人口は、歴史のなかで自然増と社会増に支えられて順調な人口増加傾向が1995年のピークを境にして減少傾向に転じ、自然減と社会減が同時に進行している状況となってきています。特に、若年層の人口流出が顕著であり、そうした状況が少子化に更なる拍車をかけていることに加え、着実かつ急速な高齢化の進行により、死亡者数の増加による自然減も見込まれています。このため、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると2040年における本町の総人口は7,364人まで減少すると予測されています。



『日本の地域別将来推計人口』（平成30（2018）年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

## 2. 将来のまちの危機

### ●人口減少による消滅可能性の危機

- ・町の人口は近年減少傾向にあり、特に15歳未満の年少人口と生産年齢人口、なかでも20代から30代、および50代後半から60代前半の人口減少が顕著です。
- ・若年女性（20～39歳）の人口減少はすなわち将来生まれてくる子どもの減少を意味します。このまま進行すれば、2040年には松田町は消滅する可能性が高いと言われています。

### ●集落コミュニティの維持が困難

- ・人口減少に伴い、松田地区では新松田駅周辺の自治会（行政区）等の街なかの地区、寄地区では点在する集落地でのコミュニティの維持が難しくなりつつあります。
- ・人口減少や少子高齢化による人口構造の変化が急速に進むなか、地域によっては限界集落化（過疎化などで人口の50%以上が65歳以上の高齢者になり社会的共同生活の維持が困難になる集落の状態）も懸念されます。

### ●生活利便性や地域経済などの暮らしやすさの維持が困難

- ・農業では従事者の減少や耕作地の減少などが進行しており、商業では小売業の減少や消費動向の変化などによる売り上げ減少が続いています。
- ・町民アンケート調査によれば、町が<住みにくい>と感じる理由として、商業施設の不足や買い物物の便の悪さが挙がっています。
- ・日用品の買い物やレジャー・娯楽などの消費行動を町外に求めざるをえず、その結果、町内の賑わいがなくなり商工業の低迷が続く、負の連鎖が懸念されます。

### ●公共サービスを維持継続していくための財源確保の危機

- ・町の財政指標によれば、近年は実質公債費比率や将来負担比率などの数値に改善がみられ、数値的には財政の健全化は保たれていますが、歳入に占める町税などの自主財源の割合は決して潤沢とは言えません。
- ・少子高齢化が進む中、福祉サービスや教育などにかかる費用は今後も増加が見込まれます。さらに道路や公園、上下水道、公共施設などの都市機能の整備など、町に求められる公共サービスを維持・管理運営していくための行財政は今後も厳しい状況が続くことが予想されます。

### 3. 将来期待できるまちの機会

#### ○自治基本条例による協働のまちづくり

- ・町民・議会・行政等全ての主体が一体となって取組む協働・連携協力のまちづくりを進めるため、「自治基本条例」の施行に向けた取組みが進められています。
- ・女性が輝き活躍するまちづくりとして、「松田町男女共同参画プラン」「女性活躍総合戦略」を策定し、まちなかの新たな産業や賑わいの創出に「女性の視点」を活かした取組みを進めています。

#### ○足柄上地区全体の玄関口としての役割

- ・2つの鉄道路線や東名高速道路等、充実した交通網が整備されており、本町のみならず、足柄上地区全体の玄関口として機能しています。
- ・あしがら地域(本町を含む南足柄市、中井町、大井町、山北町、開成町の区域)では、「県西地域活性化プロジェクト」において「未病を改善する」をキーワードに健康増進と地域の魅力を結ぶ取組みが進められています。
- ・2020 東京オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ 2019 などによる訪日外国人への対応を含め、神奈川県や近隣市町との広域的な連携による観光客の誘致や国際交流の機運が高まっています。
- ・今後、新松田駅・JR 松田駅の2つの駅周辺の一体的な整備により、駅前広場やアクセス道路、生活利便施設等、町の賑わいの創出やさらなる交通利便性の向上が期待されます。

#### ○先人から受け継がれた豊かな自然環境

- ・酒匂川や川音川、中津川等の河川や丹沢山系から連なる山々の緑、壮麗な富士山の眺望など、豊かな自然環境に恵まれています。
- ・寄地区の「寄自然休養村管理センター」や「寄ふれあいドッグラン」、松田地区の松田山の観光果樹園など、郊外部には自然を活かした観光拠点や宿泊施設が立地しています。
- ・近年、ナチュラル志向の食文化体験、心身のリフレッシュ、人々との交流等を求めるニーズの増加に伴い、都心部から近い憩いの空間として本町の魅力がさらに高まっています。



## 第3章 町民の期待

### 1. まちの住みよさ

「松田町総合計画のためのまちづくり町民アンケート調査」(2018年3~5月実施、以下「町民アンケート」と略す)によれば、7割近い人が松田町は住みよいと答え、自然の豊かさや交通の便のよさを理由として挙げています。特に松田惣領・松田庶子地区では交通の便のよさが多く、寄地区では自然の豊かさが多くなっています。

一方で、住みにくいと答えた人からは、商業施設等の不足や買い物の便の悪さを指摘する声が多くなっています。

5年前の調査結果と比較してもほぼ同様の結果となっています。

#### <松田地区>

松田地区(松田惣領・松田庶子)の住みよさ意識は「どちらかと言えば住みよい」が55.8%、次いで「とても住みよい」が17.4%と、<住みよい>と感じる人が約73%と多くなっています。

<住みよい>理由として「豊かな自然環境」に次いで「交通が便利」が挙がっています。

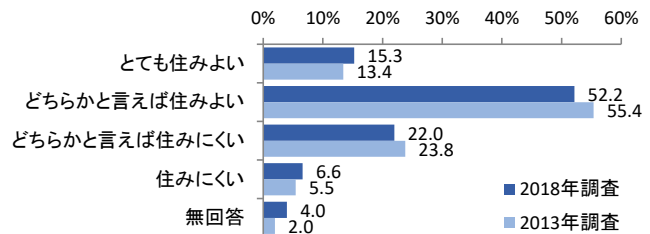
#### <寄地区>

寄地区)の住みよさ意識は「どちらかと言えば住みよい」が41.3%、次いで「どちらかと言えば住みにくい」が33.8%で、「とても住みよい」は5.6%に留まっています。

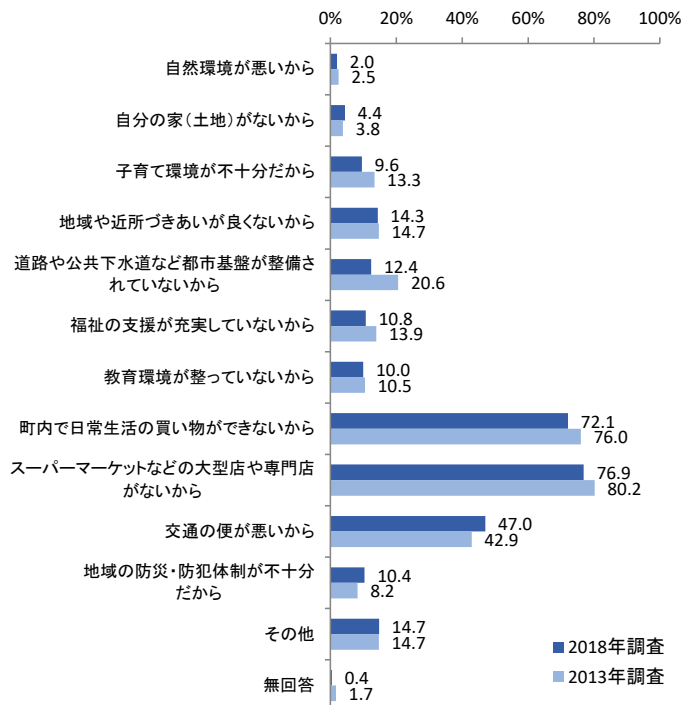
<住みよい>理由として「豊かな自然環境」に次いで「近所づきあいが良好」が挙がっていますが、<住みにくい>理由では「交通の便が悪い」が最も多くなっています。

<中学生ワークショップ>、<団体ヒアリング>の結果を追加します 実施：8~9月

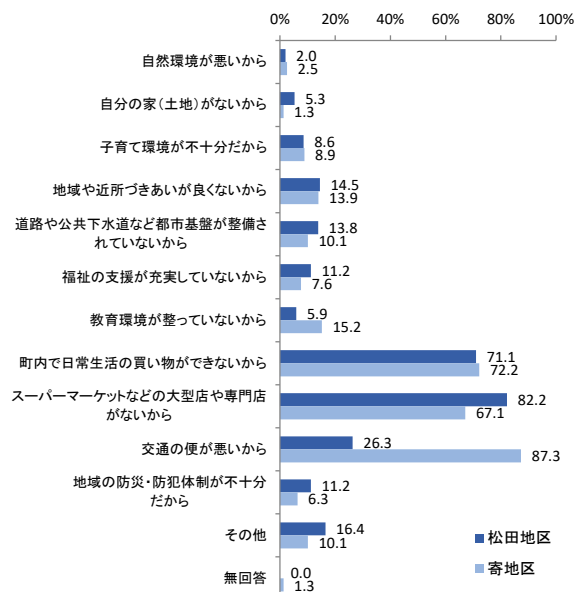
#### ■住みやすさ意識



#### ■住みにくい理由



#### ■住みにくい理由(地区比較)



## 2. 将来のまちづくり

「町民アンケート」によれば、今後の人口規模については半数が増加すべきと答え、そのためには買い物の利便性向上や働く場所の確保が効果的としています。

30代で<住みにくい>と感じる理由では子育て支援や教育環境への不満もみられることから、この世代からは人口増加策として幼稚園や保育所の充実も有効との意見がみられます。

### <松田地区>

松田地区では、将来人口の希望として「人口を増やすべき」が46%、次いで「現状維持」が30.9%となっています。

効果的な人口増加策としては「買い物の利便性をよくする」が71.6%で最も多くなっています。

### <寄地区>

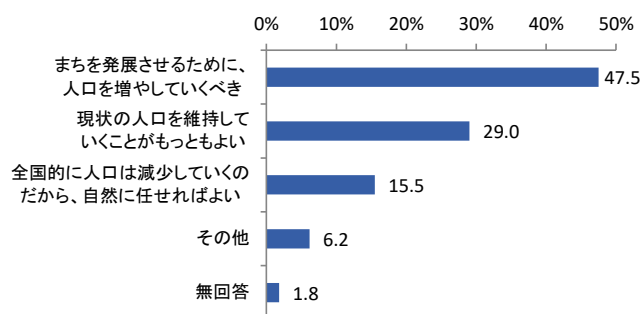
寄地区の将来人口の希望も「人口を増やすべき」が松田地区より7ポイント上回る53.1%となっている一方、「自然に任せればよい」も松田地区をやや上回っています。

効果的な人口増加策としては「買い物の利便性をよくする」が71.6%で最も多くなっています。

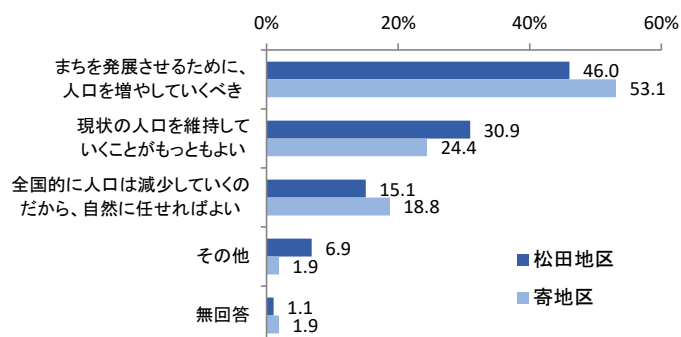
効果的な人口増加策では松田地区と同様「買い物の利便性をよくする」が67.5%で最も多いものの、次いで「働く場所を確保する」も61.9%と多くなっています。

<中学生ワークショップ>、<団体ヒアリング>  
の結果を追加します 実施：8～9月

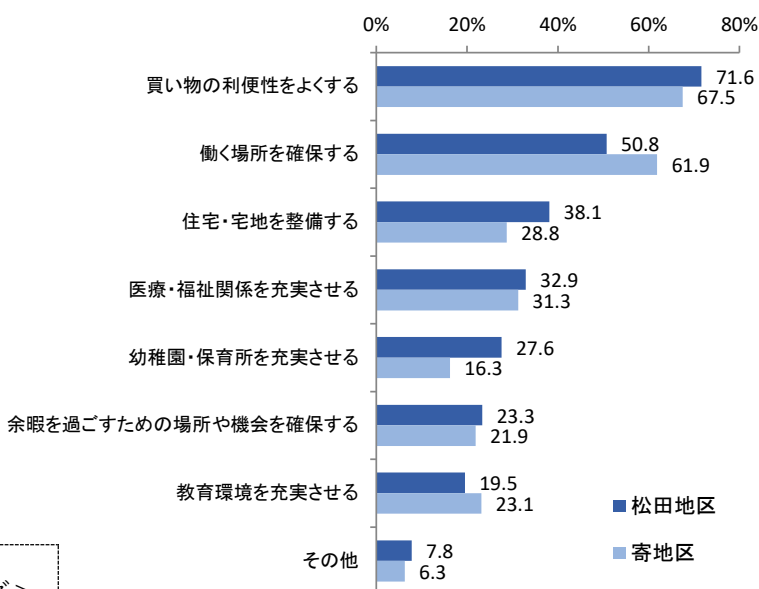
### ■将来人口の希望



### ■将来人口の希望（地区比較）



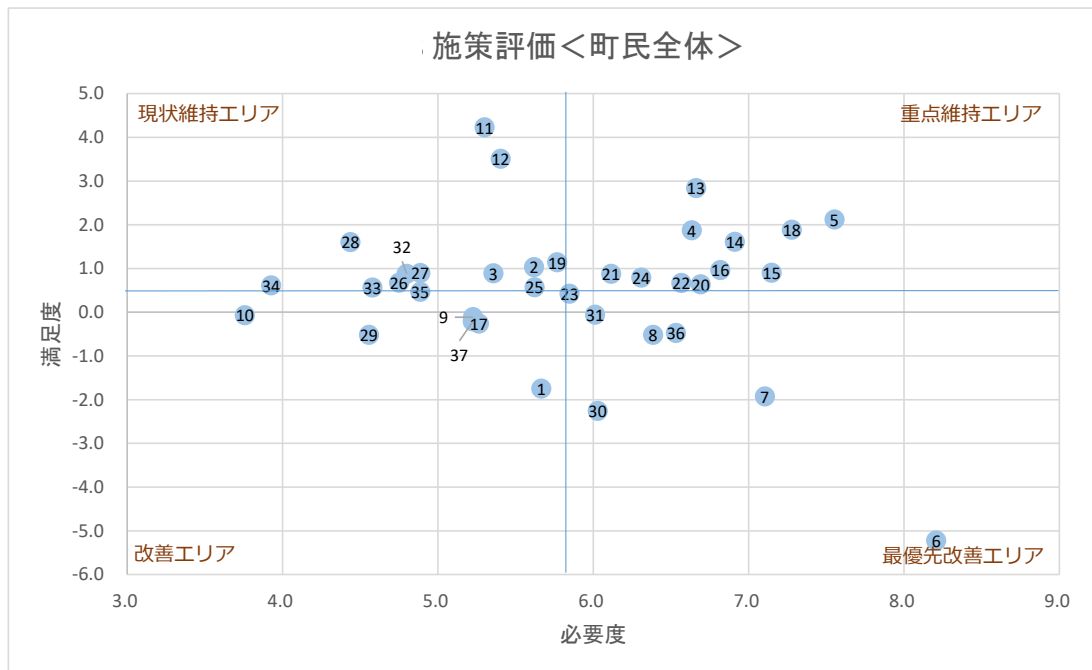
### ■効果的な人口増加策（地区比較）



### 3. 取組みの評価

「町民アンケート」によれば、現在のまちづくりの6つの柱のうち、<1 自然・景観>、<3 健康・福祉>、<4 教育・文化>は比較的満足度が高いものの、<2 都市基盤・生活環境>、<5 産業>、<6 行財政>では改善が求められる項目が多くなっています。

特に、<2 都市基盤・生活環境>の「新松田駅・松田駅周辺の整備」や「道路網や生活道路の整備」については最優先の改善が求められています。



領域ごとの項目は以下の通りです。

- 19. 町民主体の福祉のまちづくり
- 2. 河川の整備
- 12. 下水道の整備
- 3. 魅力的な景観づくり
- 11. 上水道の整備
- 27. 地域文化の継承や創造
- 32. 地域コミュニティ活動の支援
- 26. 生涯学習の充実
- 33. 町民参加・主体のまちづくり
- 28. スポーツ・レクリエーションの充実
- 34. 人権・男女共同参画の推進
- 25. 青少年の健全育成
- 23. 障害者福祉の充実

必要性が低い一方、満足度が高い領域。満足度は高いので現状を維持すれば十分

必要性は低く、満足度も低い領域。必要性が低いので最優先ではないものの、何らかの改善が必要

- 1. 総合的な土地利用の推進
- 17. 消費者保護の充実
- 37. 広域行政の推進
- 9. 公園・緑地の整備
- 35. 行政改革、広報広聴の推進
- 29. 農林業の振興
- 10. 住宅の整備

- 5. ごみ処理対策
- 18. 健康づくりや医療体制の充実
- 15. 防犯対策の充実
- 14. 防災体制の充実
- 16. 交通安全対策の充実
- 20. 介護保険や国民健康保険の充実
- 13. 消防・救急体制の充実
- 4. 自然環境の保全
- 22. 高齢者福祉の充実
- 24. 幼児教育・学校教育の充実
- 21. 児童福祉の充実

必要性が高く、満足度も高い領域。現状は問題ないが満足度の水準を保つように注意が必要

必要性が高いものの、満足度が低い領域。最優先で改善が必要

- 6. 新松田駅・松田駅周辺の整備
- 7. 道路網や生活道路の整備
- 36. 健全な財政運営
- 8. バスや鉄道等公共交通の整備
- 30. 商工業の振興
- 31. 観光の振興

定住促進に向けたプロジェクトへの評価をみると、「骨格形成プロジェクト」については一定の評価が得られており、県西部の交通の要所として町が力を入れて整備している点は評価しつつ、さらなる期待が寄せられていると考えられます。

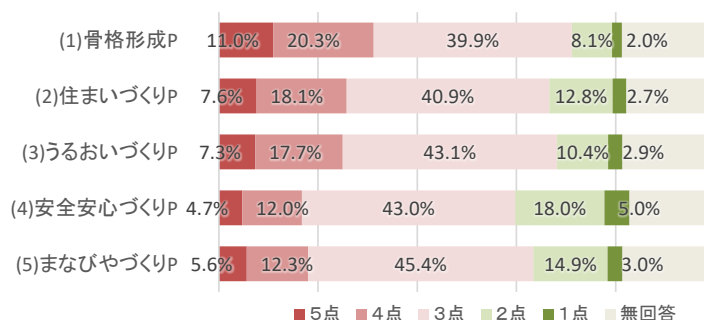
### <松田地区>

松田地区での定住促進プロジェクトの評価は、全体の結果と同様に「骨格形成プロジェクト」への評価が最も高く、次いで「住まいづくりプロジェクト」であり、「安心安全プロジェクト」が最も低い評価となっています。

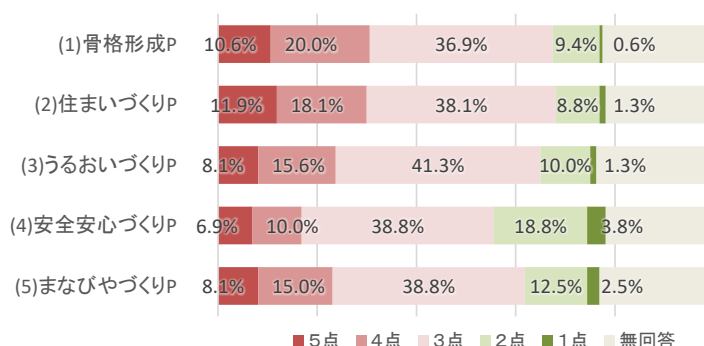
### <寄地区>

寄地区では「住まいづくりプロジェクト」への評価が最も高く、次いで「骨格形成プロジェクト」となっており、松田地区同様に「安心安全プロジェクト」が最も低い評価ですが、「まなびやづくりプロジェクト」の評価は松田地区より高くなっています。

### ■定住促進プロジェクトの評価（松田地区）



### ■定住促進プロジェクトの評価（寄地区）



#### 【骨格形成プロジェクト】とは

松田町第5次総合計画の新まちづくりアクションプログラムにおいて、広域交流の結節点の強化による地域資源などとの交流、ふれあいを活性化し、賑わいのあるまちづくりをめざす、松田町の「定住化を促進する5つのプロジェクト」の一つです。

#### <主な取組事業> ◎は優先的に取り組む重点事業

- ◎新松田駅南口駅前広場等の効率的・効果的な整備
- ◎新松田駅北口周辺整備のあり方についての検討、調査・計画
- ◎「（仮称）松田町やすらぎ歩行空間整備計画」の策定及び効果的な整備
- ◎地域懇話会等の定期的な開催
- ◎広報紙・ホームページ等を通じて町民の意見や声を求める場の充実
- ◎効率的な仕事の進め方の導入
- ◎職員研修計画の実施
- ◎収納率の向上と体制の強化
- ・効果的な交通施策の推進と新たな交通施策の展開
- ・生活排水処理施設整備事業の推進

## 4. 協働・連携協力のまちづくり

「町民アンケート」によれば、協働・連携協力のまちづくりの取組みとしては、「地域の人々が知り合い、ふれあう機会を地域住民が自発的に増やす」ことや「ささえあう地域づくりに関する情報の提供や意識啓発を行う」ことが求められています。

5年前の調査結果でも「ふれあう機会を地域住民が自発的に増やす」が第1位でしたが、今回は10ポイントほど低下し、第2位の「情報提供や意識啓発」と僅差となっており、直接的な行動よりもまず情報や意識付けが大事という傾向が強くなっています。

町政の関わり方については専門家に任せたい、自分はアンケート等で参加したいという意見が半数を占め、10代や20代ではそもそも町政に関心がないという意見もみられる一方、60代以上では懇談会や対話集会へ参加したい人もみられます。

町外へ通勤・通学している現役世代と日中ほとんどを町内で過ごす人達とでは協働のまちづくりや町政への参加の可否も異なることから、従来の手法だけでなく、インターネットを使った情報提供の充実やTwitterなどを活用した相互対話など多様な参画の手段を講じていく必要があります。

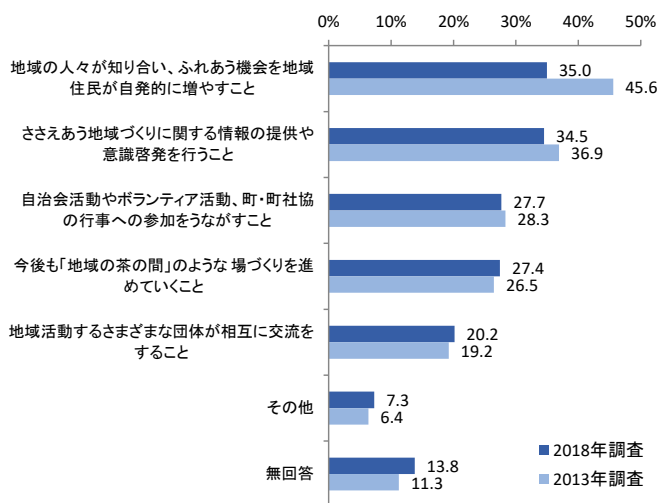
### <松田地区>

松田地区では、町政の関わり方について「アンケート」の希望が最も多く、「町政に関心がない」人もやや多くなっています。

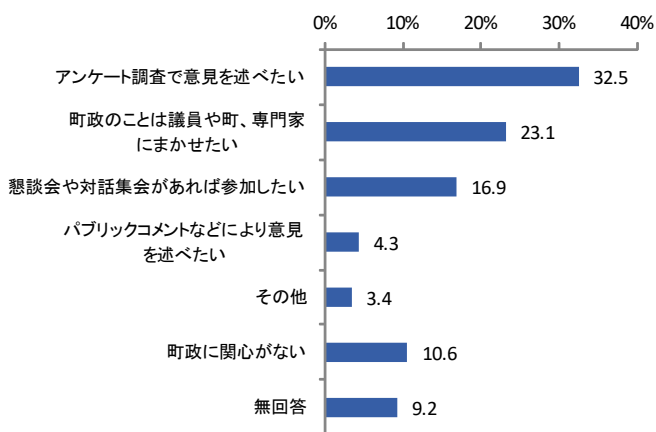
### <寄地区>

寄地区でも「アンケート」での関わりの希望が最も多いものの、「専門家に任せたい」や「懇談会等への参加」という意見も松田地区に比べ多くなっています。

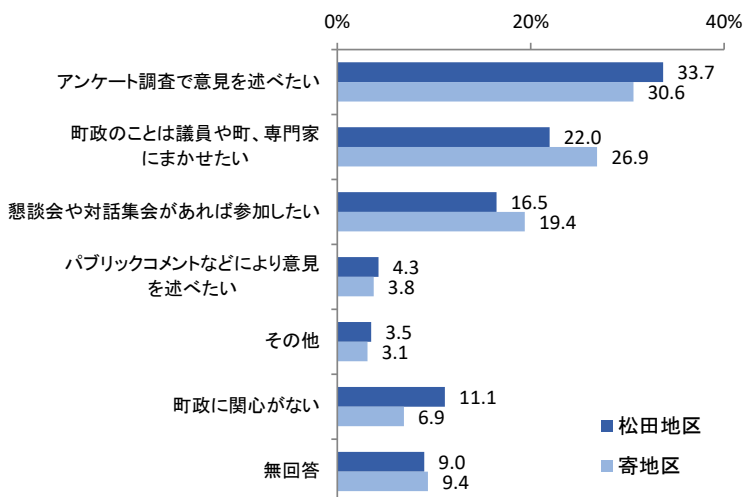
### ■協働のまちづくり



### ■町政への関わり方



### ■町政への関わり方（地区比較）



## 第4章

## まちづくりの戦略課題

### 課題1：町民や地域と連携した協働のまちづくりが必要

#### 将来の 危機

- まちなかの空洞化や農村集落環境の変化などにより、地域の伝統や文化の継承が途絶えてしまう恐れがあります。
- 公共サービスや都市機能を維持していくためには行政の力だけでは立ちゆかなくなる恐れがあります。

#### 将来の 機会

- 町民・議会・行政等全ての主体が一体となって取組む協働・連携協力のまちづくりに向け「自治基本条例」などの整備が進んでいます。

#### 町民の 期待

- 先人から受け継がれてきた豊かな自然環境は町の誇りであり、今後も大切な財産として守っていくべきものです。
- 協働・連携協力のまちづくりに向け、住民同士の交流機会や情報提供、意識啓発などが求められています。

### 課題2：町の魅力創出や生活サービスの維持など町民の安定的な暮らしが必要

#### 将来の 危機

- 商業施設の不足や買い物の便の悪さからヒトやおカネが町外へ流出し、商工業が衰退していく恐れがあります。
- 人口減少や企業活動の低迷により町の税収が落ち込み、将来財政的危機に陥る恐れがあります。

#### 将来の 機会

- 新松田駅・松田駅周辺の一体的な整備による町の賑わいの創出やさらなる交通利便性の向上が期待されています。
- 「未病を改善する」など、新たなテーマに戦略的に取組み、地域の魅力を高め活力を生み出すプロジェクトが進行中です。

#### 町民の 期待

- 町の維持発展のために人口増加が必要であり、そのためには買い物の利便性の向上や働く場所の確保が求められています。
- 駅周辺整備や道路網の整備への期待も大きく、商業施設やアクセス道路の整備が求められています。

### 課題3：町の文化の継承と町民一人ひとりのまちづくり意識の醸成が必要

#### 将来の 危機

- 町の人口は近年減少傾向にあり、若年女性の人口減少がこのまま進行すれば、将来、松田町は消滅してしまう可能性が高いと言われています。
- 近所づきあいやコミュニティの維持ができなくなる恐れがあります。

#### 将来の 機会

- 豊かな自然環境を活かした地域交流や健康増進など、都心から近い憩いの空間としての魅力が高まっています。
- まちなかの新たな産業や賑わいの創出に「女性の視点」を活かす、女性活躍社会への取組みが始まっています。

#### 町民の 期待

- まちへの関心をさらに高め主体的に参加してもらうために、アンケートやインターネットなど、新しい形での町政参加などが求められています。

## **第2編 基本構想・基本計画**



## 第1章 まちづくりの基本的な考え方

丹沢山系に連なる山々の緑と清流の豊かな自然を持つ松田町では、この自然環境を後世にしっかりと継承していくべき貴重な財産として守り育むまちづくりと、人と地域が連携するまちづくりを基本としてきました。「松田町第5次総合計画」においても、「緑と清流のまち、ゆとりを楽しむ きらめく松田」を将来像として、まちづくり戦略に取り組んできました。

その間、社会情勢は地球規模で変動しており、気候変動、自然災害といった地球規模の課題もグローバルに連鎖して発生し、経済成長や社会問題にも波及して深刻な影響を及ぼす時代になってきています。このような状況を踏まえ、2015年9月に国連で採択された、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」において、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」ことをビジョンとして、わが国においても持続可能な開発目標（SDGs）が推進されています。

本町においては人口が1995年を境に減少しており、人口減少や少子高齢化、町の活力の低下が逼迫した課題となっています。将来人口推計において、2040年には7,364人まで減少することが予想されている中、本町においても、持続可能でより強靱な社会が求められ、わが国における持続可能な開発目標（SDGs）を踏まえて、まちづくりを進める必要があります。

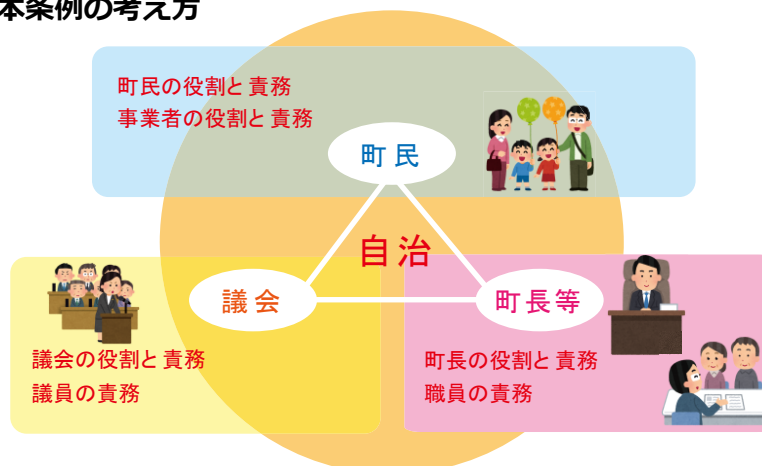
こうした課題を解決していくために、これからのまちづくりを、みんなで考え、みんなで作ってあげていくことが必要であり、2018年には松田町のまちづくりの最高規範となる「松田町自治基本条例」を制定しました。自治基本条例においては、町民、議会及び町長等が相互に協力して、町民主体の自治の確立を目指し、「情報共有」、「参加」、「協働・連携協力」をまちづくりの基本原則として推進することとしています。

このような社会情勢や町の状況を踏まえ、次の3つを基本的な考え方としてこれからのまちづくりを推進します。

### （1）みんなが主役のまちづくり

本町における自治の基本理念に基づき、町民、議会及び町長等が相互に協力し、町民主体の自治の確立を目指します。そのため、まちづくりの基本原則である「情報共有」、「参加」、「協働・連携協力」によりみんなが主役のまちづくりを進めます。

#### ■松田町自治基本条例の考え方






















## (2) 魅力があり持続可能なまちづくり

多様化するニーズや課題に対応するためには、選択と集中による効率的な行政運営、効果的なまちづくりが求められます。そのため、多様な地域資源や町民の力を活かしながら、町の魅力を高めることで町の活力につなげるとともに、多様なニーズ・課題に対応した持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けたまちづくりを進めます。

### ■持続可能な開発目標（SDGs）17のゴール（目標）

開発目標	開発目標
 ①あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ	 ⑩国内および国家間の不平等を是正する
 ②飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する	 ⑪都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする
 ③あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する	 ⑫持続可能な消費と生産のパターンを確保する
 ④すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	 ⑬気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
 ⑤ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメント（自律的に行動する力の醸成）を図る	 ⑭海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
 ⑥すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する	 ⑮陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
 ⑦すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	 ⑯持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
 ⑧すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（適切な雇用）を推進する	 ⑰持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
 ⑨レジリエント（強靱）なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る	

## (3) 郷土愛をもって活躍する人づくり

人口減少下においては、町民一人ひとりの力とまちづくりに対する高い意識が重要です。そのため、「松田町民憲章」を踏まえ、本町の水や緑、歴史や文化を尊重し、町民が郷土愛をもって一人ひとりが活躍するまちづくりを進めます。

### 松田町民憲章（1989年5月15日制定）

- 1 恵まれた水と緑を大切にし、うるおいのあるまちをつくりまします。
- 1 豊かな人間性を育み、文化の香り高いまちをつくりまします。
- 1 健康な心とからだをきたえ、活力にあふれるまちをつくりまします。
- 1 郷土を愛し、平和に満ちた心のかよいあうまちをつくりまします。
- 1 たがいに助け合い、愛の輪が広がるまちをつくりまします。

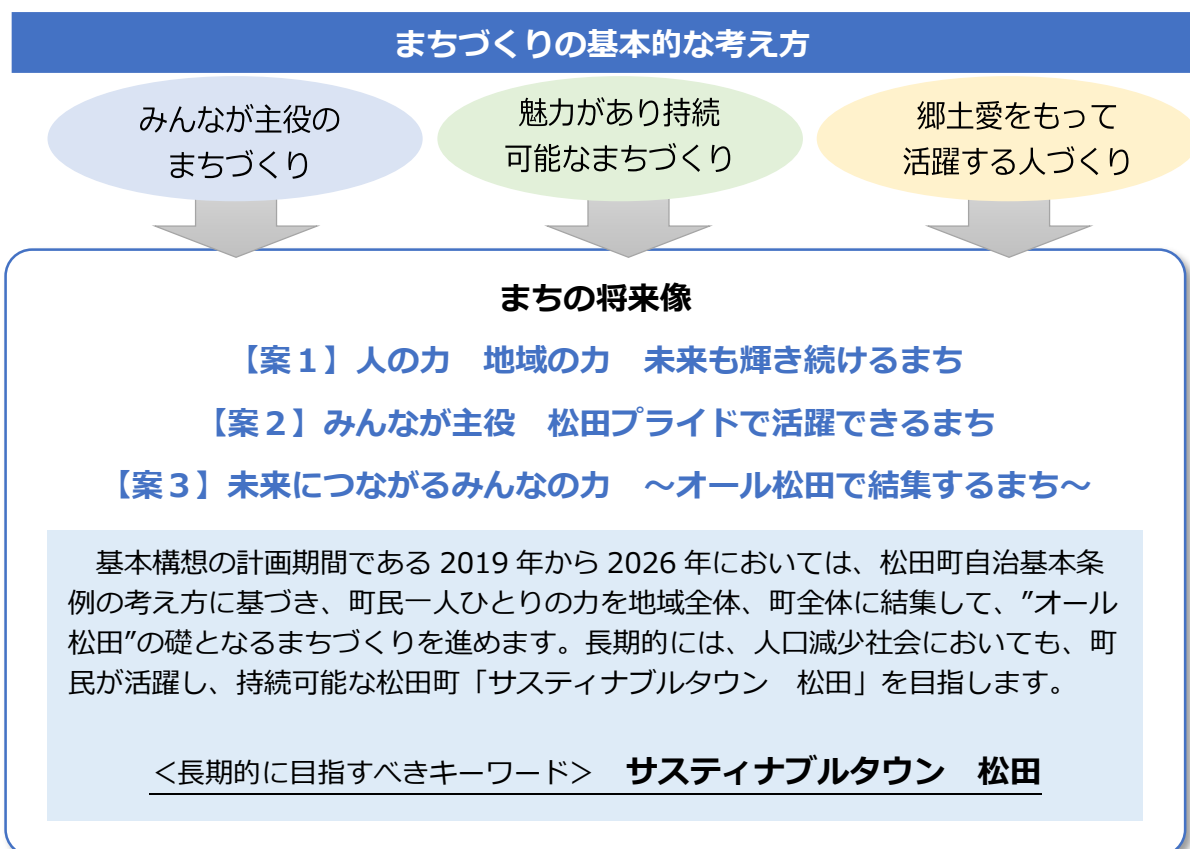
## 第2章 松田町が目指す将来像

### 1. 長期を見越した8年間で目指す将来像

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると2040年における本町の総人口は7,364人まで減少すると予測されています。本町における人口約7,000人は概ね1940年と同様の規模ですが、当時と比較すると世帯数は3倍となり、都市的土地利用の進行と多様なニーズに対応する行政サービスの充実が求められる現在においては、ますます行財政運営が困難になることが懸念されます。

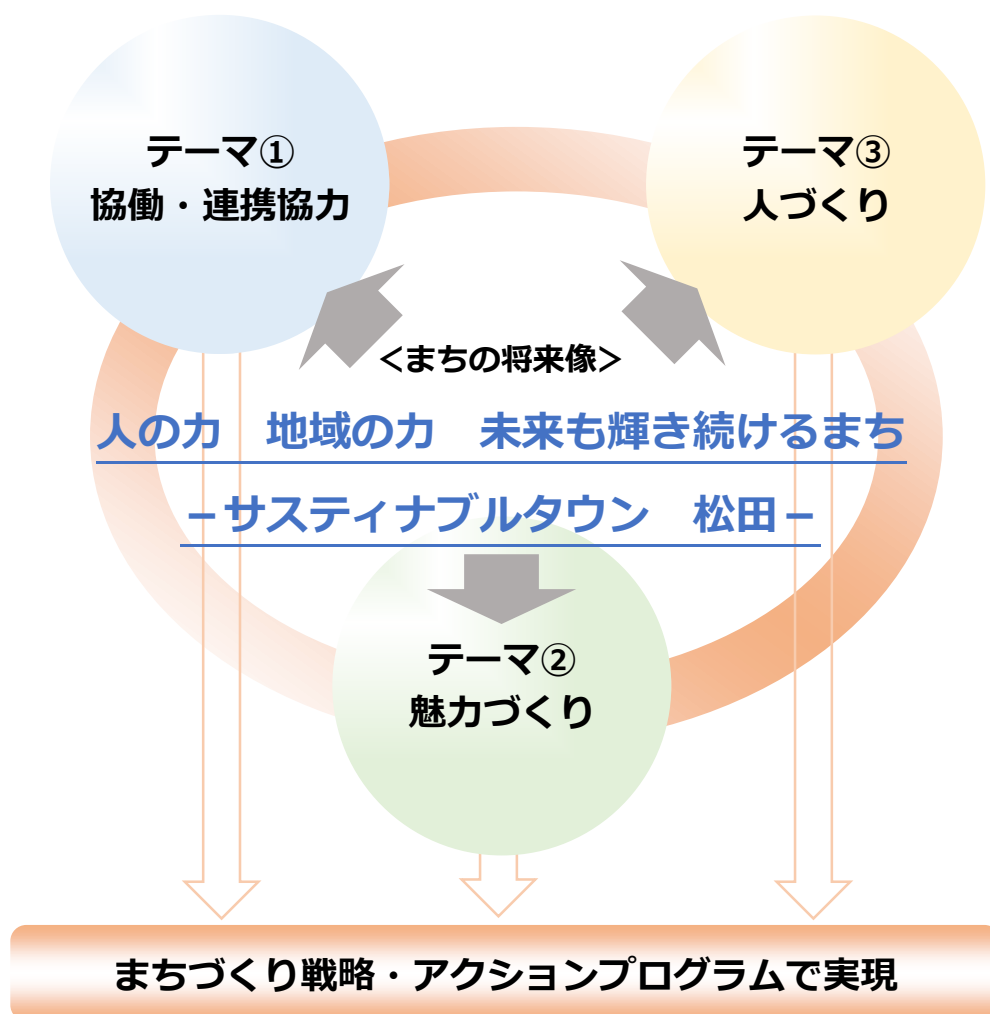
一方で、酒匂川や川音川、中津川等の河川や丹沢山系から連なる山々の緑など、豊かな自然環境は先人から受け継がれ、足柄上地区全体の玄関口としての役割は将来も期待される要素です。さらに、松田町自治基本条例に基づき町民が主役のまちづくりを目指しており、将来も町民一人ひとりの力は本町のまちづくりの大きな力となります。

このような状況で、長期的な危機感を持ちつつ、これまでに受け継がれてきた地域資源を活かしながら町民一人ひとりの松田町の誇りと力を結集することで、未来も発展し輝き続ける松田町を目指します。そのため、本計画の期間であるこの8年間では、将来も松田町として持続的に生き続けるまちの土台づくりとして、町民一人ひとりの力を地域の力、町全体の力へと発展させ、町民が誇りと希望をもって活躍できるまちを目指します。



## 2. まちづくりのテーマ

まちづくりの基本的な考え方とまちの将来像を踏まえ、まちづくりの課題解決に向けて本計画の計画期間である8年間で重点的に取り組むべきまちづくりの3つのテーマを設定します。まちづくりのテーマに基づき、まちづくり戦略やアクションプログラムにおいて実現に向けた取組みを展開します。



テーマ	取組みの方向性
<b>テーマ①</b> <b>協働・連携協力</b>	松田町自治基本条例におけるまちづくりの基本原則のうち、まちの将来像で掲げる“人のか”、“地域のか”を高めるために、「協働・連携協力」によるまちづくりを重点的に進めます。
<b>テーマ②</b> <b>魅力づくり</b>	長期的に“サステナブルタウン（持続可能なまち）”を目指し、新松田駅・松田駅周辺のポテンシャルや寄地区の豊かな自然環境などの松田町の強みを活用したまちづくりを重点的に進めます。
<b>テーマ③</b> <b>人づくり</b>	町民一人ひとりが松田町に愛着をもち、活躍できる「人づくり」に取り組むことで、まちの将来像で掲げる“未来も輝き続けるまち”を実現します。

### 3. まちの空間形成と広域連携

#### (1) まちの空間形成と広域連携の基本的な考え方

松田町の空間特性を踏まえ、まちの空間形成と広域連携の基本的な考え方として、次の3つの方針を定めます。

#### 1. 松田地区と寄地区の特性を尊重

松田地区と寄地区の特性を尊重し、各地区の相乗効果を含めた空間構造を形成します。

#### 2. ゾーン、軸、拠点の形成によるメリハリのあるまちづくり

多彩な資源を活用し、ゾーン、軸、拠点の形成によるメリハリのあるまちづくりにより、空間の質的改善・向上を図ります。

#### 3. 足柄上地域の玄関口として広域連携の強化

足柄上地域をはじめ県西部地域の北の玄関口として、2018年に策定した「あしがら地域広域ビジョン」を踏まえ、近隣市町村との連携を一層強化し、あしがら地域の魅力の創造・発信、地域産業の振興、誰もが活躍できる地域づくり、安全・安心な地域づくり、地域を支える社会基盤の整備について、広域連携を図りながら取組めます。

#### (2) 空間形成の方向性

松田町の有する豊かな自然環境や景観資源などを守りながらも、町の発展につながる資源として積極的に活用を図り、多彩な交流を支える資源だけではなく、町の特徴ある快適環境づくりを進めます。

#### ①ゾーンの形成

町の基本構造を踏まえ「森林地域」と「まち地域」に分け、森林地域では3つの「森林保全ゾーン」、「自然共生ゾーン」、「森と清流文化の里ゾーン」、まち地域では2つの「市街地ゾーン」、「郊外住宅ゾーン」に区分し、各ゾーンの特性に応じた地域づくりをめざします。

#### 1) 森林地域

ゾーン	位置づけ
森林保全ゾーン	自然保全地域と自然公園地域を「森林保全ゾーン」と位置づけ、森林環境の適切な管理・保全を図ります。
自然共生ゾーン	郊外住宅地周辺及び東名高速道路北側を「自然共生ゾーン」と位置づけ、農地及び緑環境の管理・保全を基本としながら、観光農園や自然体験・学習など、交流の場としての活用を図ります。
森と清流文化の里ゾーン	寄地区周辺を「森と清流文化の里ゾーン」と位置づけ、自然を活かした暮らしづくりの創造・演出を図ります。

## 2) まち地域

ゾーン	位置づけ
市街地ゾーン	東名高速道路南側や湯の沢地区を中心に形成されている既成市街地を「市街地ゾーン」として位置づけ、多くの町民が生活を営む市街地として、居住環境の改善や都市機能の充実を進め、質の高い居住環境の形成を図ります。
郊外住宅ゾーン	寄地区の住宅地を「郊外居住ゾーン」として位置づけ、既存コミュニティの維持・活性化に向けた環境づくりを進めます。

### ②拠点と軸の形成

まちづくりの核となる各拠点の形成とともに、松田地区と寄地区を結ぶ軸の形成を目指します。

#### 1) 拠点

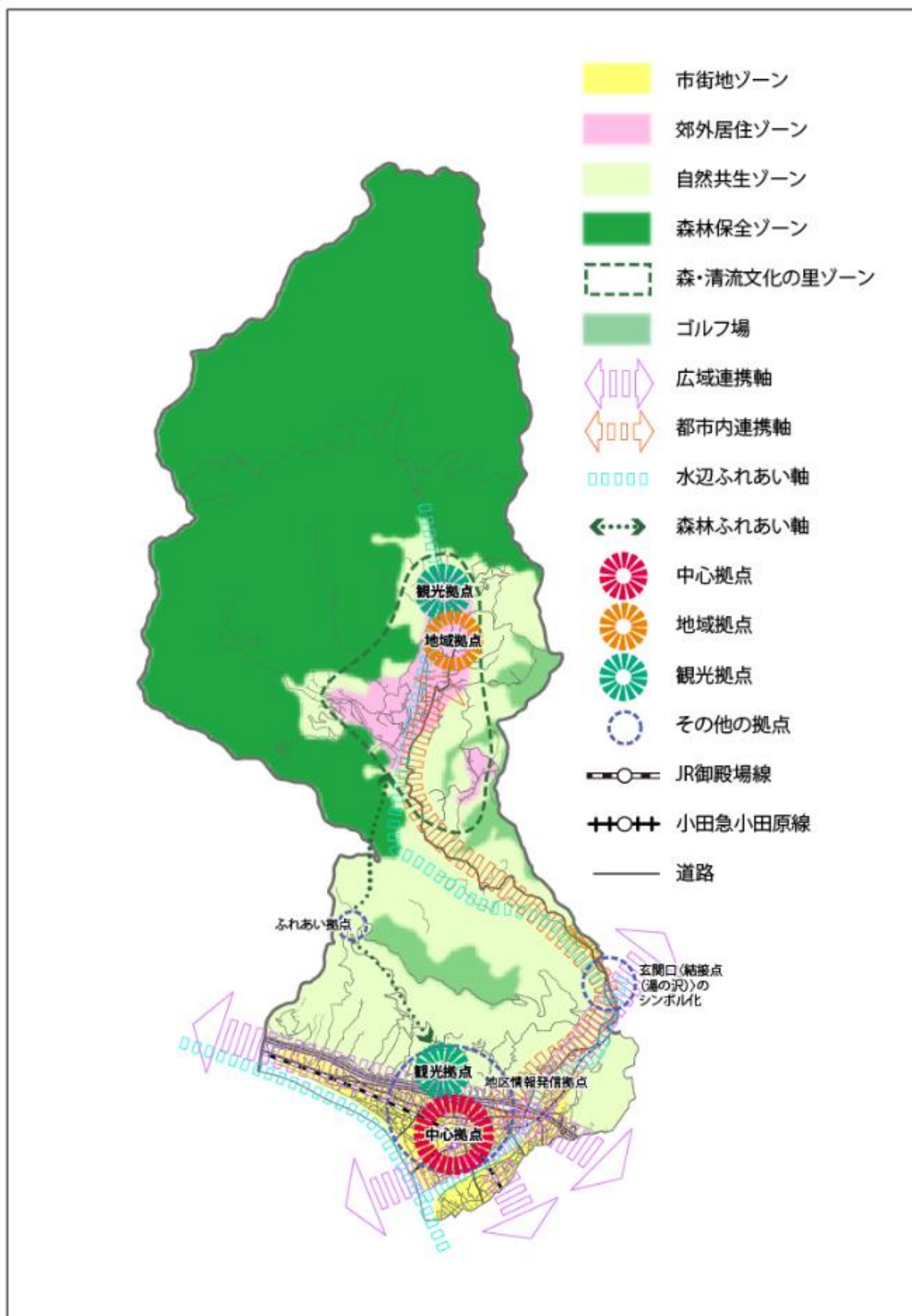
拠点	位置づけ
中心拠点	本町の玄関口となる松田駅及び新松田駅周辺を「中心拠点」として位置づけ、町民の生活利便性の向上に資する商業・業務機能や交通結節機能の整備・充実を図るとともに、まちの回遊性を高め、町民や来訪者が歩いて過ごすことが出来る環境づくりを推進し、中心拠点にふさわしい賑わいの創出を図ります。
地域拠点	寄出張所、寄小学校周辺を「地域拠点」として位置づけ、寄地区の地域住民の生活利便性の向上に資する環境づくりを進めます。
観光拠点	松田山ハーブガーデン周辺や寄自然休養村管理センターの周辺を「観光拠点」として位置づけ、自然資源や歴史資源を守りながら、交流人口の更なる獲得に向け観光やレクリエーションの場として機能の充実を図ります。

#### 2) 軸

軸	位置づけ
広域連携軸	JR 御殿場線、小田急小田原線、東名高速道路、国道 246 号及び 255 号を「広域連携軸」として位置づけ、本町と東京・静岡方面をつなぐ広域的なアクセスを担うとともに、大井町、秦野市、小田原市、山北町といった周辺市町をつなぐ交通網として、その機能の維持、充実を図ります。
都市内連携軸	中心拠点と地域拠点をつなぐ軸を「都市内連携軸」として位置づけ、松田地区と寄地区の連携強化を図ります。
水辺ふれあい軸	酒匂川・中津川・川音川を「水辺ふれあい軸」として位置づけ、水辺のふれあい環境づくりを図ります。
森林ふれあい軸	松田地区と寄地区を結ぶ軸として自然遊歩道・ハイキングコースを「森林ふれあい軸」として位置づけ、休憩・休息施設などで自然・森林などをはじめとした様々な情報を発信・提供します。



■ まちの空間形成図



## 4. 将来人口フレーム

### 【人口動向】

松田町の人口は1995年の13,270人を境にして人口減少が続いており、2015年には11,171人となっています。人口減少の要因としては、社会減と自然減による人口減少傾向の拡大、特に若年世代の流出超過と合計特殊出生率の低下が考えられます。

### 【松田町第5次総合計画基本構想における将来人口の目標】

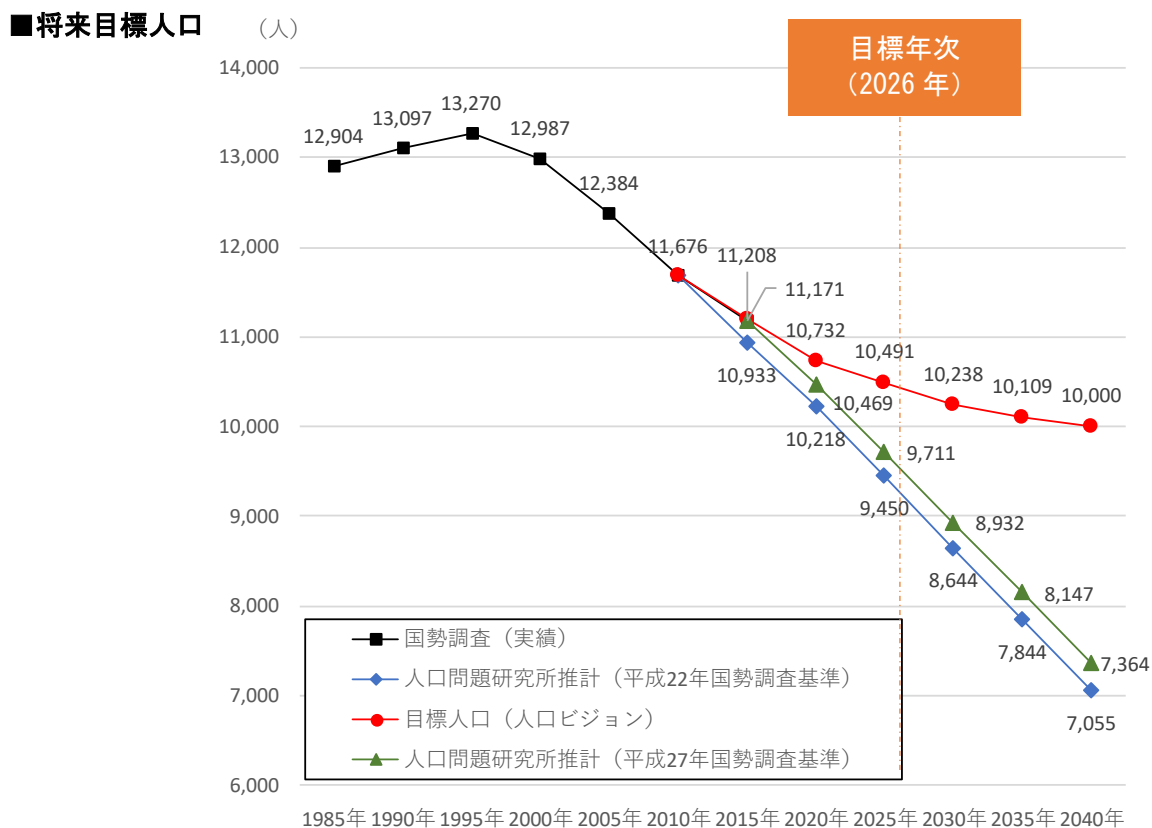
「松田町第5次総合計画基本構想」においては、2018年の将来人口の目標と11,000人と設定しており、概ね達成できる見込みで推移しています。

### 【松田町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略における将来目標人口】

そのような中で、2016年に策定した「松田町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」において、2010年の人口（11,676人）を基準とした人口推計では、2040年までに約7,000人まで減少することが予想されますが、合計特殊出生率の向上や社会減の抑制により2040年の目標人口を10,000人としています。

### 【現状を踏まえた将来目標人口の設定】

その後、2015年の人口は11,171人となっており、人口ビジョンで設定した将来目標人口と概ね同様の傾向で推移しています。引き続き、人口減少対策に取り組むことで、2040年の将来目標人口10,000人を見据え、本計画の目標年次である2026年においては人口10,400人を目標とします。



上記の検討を踏まえ、本計画においては、目標年次（2026年）と中間年次（2022年）の目標人口を以下のように設定します。

### ■将来目標人口の設定

	2015年（実績値）	2022年（中間目標）	2026年（最終目標）
将来目標人口	11,171人	10,600人	10,400人

### ■年齢構成別将来目標人口

	2015年	2022年	2026年	2040年
将来目標人口※	11,171	10,600人	10,400人	10,000
0～14歳	1,118	1,100人	1,100人	1,100
15～64歳	6,553	6,000人	5,800人	5,400
65歳以上	3,496	3,500人	3,500人	3,500
不詳	4	—	—	—

※2015年は国勢調査による実績値

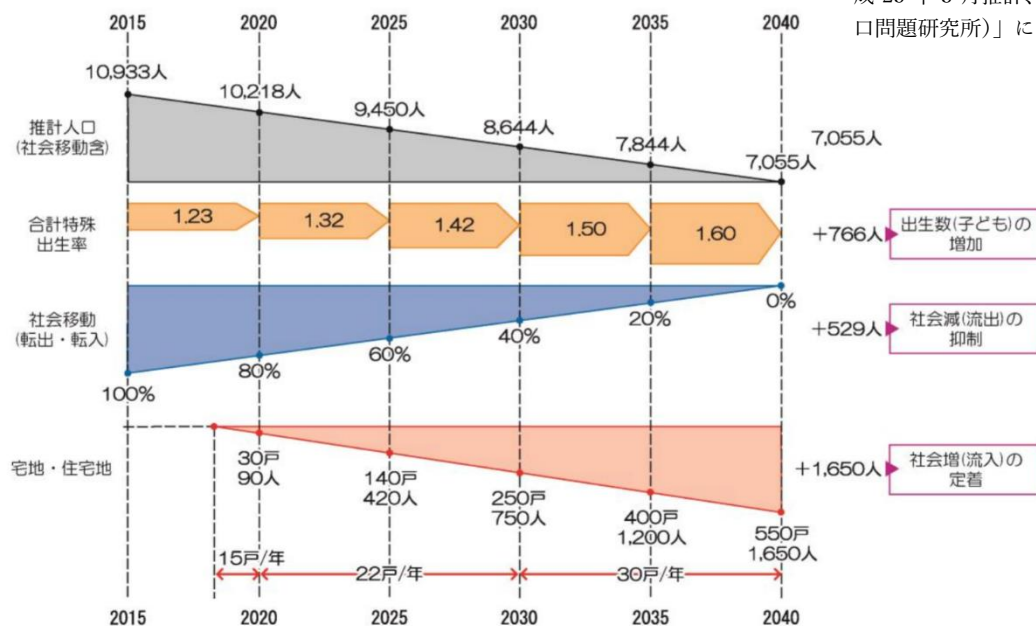
また、将来目標人口を達成するために、松田町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略に掲げる次のような施策等を展開します。

- ① 合計特殊出生率を上げる方策
- ② 社会移動（転入・転出）を“±0”にする方策
- ③ 新たな宅地・住宅の供給

### 【参考】目標人口10,000人の政策展開イメージ

（松田町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略より）

※図中の推計人口は、人口ビジョン策定時の「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計、国立社会保障・人口問題研究所）」による





## 第3章 施策の大綱

まちの将来像「(仮案) 人の力 地域の力 持続可能で生き続けるまち 松田町」の実現に向けて、6つの柱(目標)を掲げ、国が推進する持続可能な開発目標(SDGs)を踏まえながら取り組むこととします。

### 1. 健康で安心できる生活を育むまち(健康・福祉)

町民アンケート調査において、10年後のまちの姿として、「医療と福祉の充実したまち」が最も多く求められています。

そのため、だれもが健康的で安心して暮らすことができる生活を確保し、町民の視点に立った医療・福祉の環境づくりを進めます。また、身近な地域における人や地域のつながりやふれあい、助け合いを活かし、みんなが安心して暮らせる社会づくりを進めます。



### 2. 質の高い学びで次代の子どもを育むまち(教育・文化)

町民が参画しまちづくりを進めるためには、松田町への愛着をもち、町民一人ひとりが生涯活躍することができる社会づくりが必要です。

そのため、町民一人ひとりに対して、地域の歴史や文化、風土などの魅力を学び、愛着や誇りを高めていくとともに、明日の担い手となる人づくりを町ぐるみで進めます。

町民のだれもが公平で質の高い教育を受けることができ、生涯活躍することができる社会を目指します。また、本町の多様な資源を活かし、文化や芸術にふれあえる学習環境づくりや楽しくスポーツ・レクリエーションの環境づくりを進めます。



### 3. 賑わいと雇用を生み出し、働きがい育むまち(経済・産業)

本町が<住みにくい>と感じる理由として、商業施設の不足や買い物への悪さが挙がっており、小売業の減少や消費動向の変化などによる売り上げ減少が商業の低迷につながっています。

また、農業では従事者の減少や耕作地の減少などが進行しており、農林業資源を活かしながら総合的産業化を進めるとともに、産業資源の交流や複合化による町に合った産業の育成・振興を図り、町民の豊かな暮らしにつながる創造的産業の振興を進めます。

さらに、最新技術を取り入れた地域イノベーションの推進により、町内での創業・起業を進めます。



#### 4. 安全で持続可能な暮らしを育むまち（暮らし・基盤）

町民アンケート調査において、今後力を入れるべきまちづくりの柱としては、「都市基盤・生活環境の整備」が最も多く求められています。

そのため、町民のだれもが暮らしやすい安全で強靱かつ持続可能なまちづくりを進めるとともに、松田地区や寄地区の特性に応じた環境づくりを進めます。また、町民が安全に安心して暮らすことができる身近な生活環境をつくります。

SDGsとの関係



#### 5. 豊かな自然を保全し、やさしい環境を育むまち（自然・環境）

本町が「く住みよい」と感じる理由として、豊かな自然環境に恵まれていることが挙がっており、本町の貴重な資源として次代の継承する必要があります。

そのため、豊かな自然の保全および持続可能な利用を促進するとともに、環境との共生の視点に立った暮らしなど、水と緑のまちとしての魅力を高め、環境や景観を楽しむまちづくりを進めます。

町民の環境に対する高い意識を活かし、町民と一体となって身近な環境対策への取組みを進めます。

SDGsとの関係



#### 6. みんなで協力し、みんなの力を育むまち（実現手段）

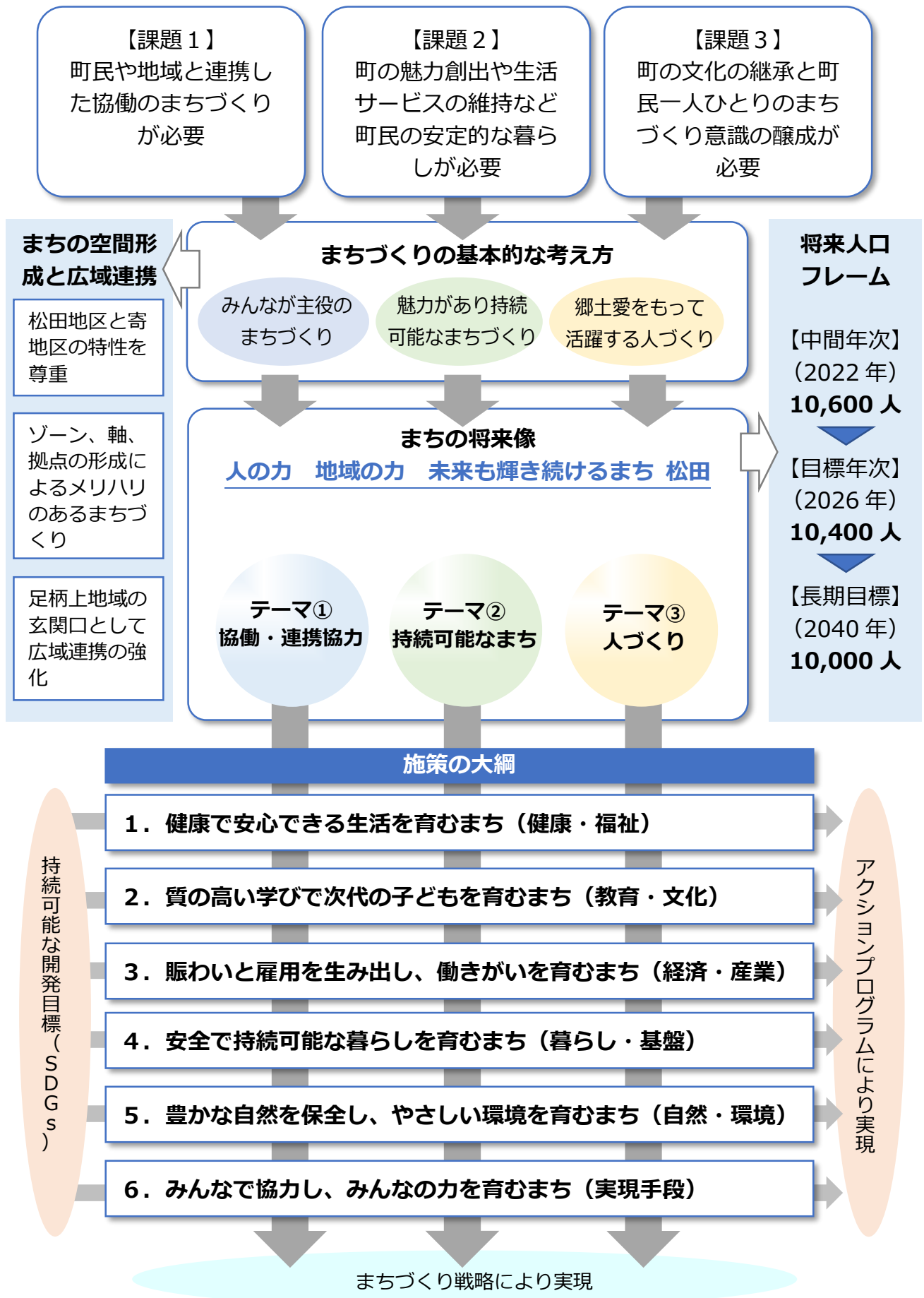
本町では、自治基本条例を制定し、町民主体のまちづくりを推進しています。自治基本条例に掲げる「情報共有」、「参加」、「協働・連携協力」をまちづくりの基本原則として、町民と行政が一体となってまちづくりの実現に向けて取組みます。

そのため、町民のまちづくりや地域づくりに対する意識を高めながら、地域住民を主体とする地域自治の実現に向けた取組みを進めるとともに、限られた財源と人材のなかで、町民にとって魅力と誇りの持てるまちに向けて、地域力の育成、まちづくりを先導する人材の育成や実践につながるシステムの構築など、小さなまちだからこそできるまちづくりを進めます。

SDGsとの関係



【第6次松田町総合計画基本構想の流れ】



## 第4章 基本計画 ※イメージ

### 1. 健康で安心できる生活を育むまち（健康・福祉）

#### 【施策体系】

#### (1) 緑と清流を活かした環境づくり

1. 土地利用

2. 河川・砂防・治山

3. 景 観

#### (2) 環境に配慮したまちづくり

1. 自然環境の保全

2. ごみ処理対策

#### (1) ●●●●●●●●●●●●●●●●

##### (1) - 1 ●●●●●●●●●●●●●●

実現したい まちの姿	.....		
基本目標	.....		
基本目標指標	項目	2018年	2022年
	...	...	...

##### (1) - 2 ●●●●●●●●●●●●●●

実現したい まちの姿	.....		
基本目標	.....		
基本目標指標	項目	2018年	2022年
	...	...	...